

事 項	にんじんのコート種子は種機による省力効果と適正は種間隔		
ね ら い	コート種子は種機による1粒は種体系について検討したところ、は種機の作業能率、作業体系の省力効果及び適正は種間隔が明らかになったので、参考に供する。		
指 導 参 考 内 容	<p>1 作業能率 は種作業速度は0.44m/sで、オペレーター1人で作業が可能である。</p> <p>2 省力効果 コート種子機械1粒は種+間引き省略作業体系の労働時間は10a当たり0.66時間で、慣行のシードテープは種+間引き作業体系の労働時間(6.98時間/10a)に比べ90%の省力化を図ることができる。</p> <p>3 適正は種間隔 コート種子1粒は種の適正は種間隔は8~10cmで、10a当たり33,000本以上の苗立本数を確保できる。</p>		
期待される効果	間引き省略が可能な機械は種栽培導入の基礎資料として、にんじん栽培の規模拡大につながる。		
利用上の注意事項	<p>1 は種間隔はは種機のsprocket歯数の組合せで設定する。</p> <p>2 ほ場が乾燥していると苗立率が低下するので適湿時には種する。</p>		
担 当	青森県畑作園芸試験場 作物改良部	対 象 地 域	県下全域
発 表 文 献 等	平成10~11年度 青森県畑作園芸試験場成績概要集		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 は種・間引きの作業時間

(平成10年 青森畑園試)

作業体系	作業員数 (人)	は種作業時間 (h/10a)	間引作業時間 (h/10a)	合計 (h/10a)
コート種子1粒機械は種	1	0.66	0	0.66
シードテープは種(慣行)	1	1.88	5.1	6.98

注1) 供試機 トラクタ装着型 多木 TPS-70 (6条で使用)

2) トラクタ クボタ A-15 (15PS)

3) シードテープは1カ所3~4粒封入

表2 は種間隔別苗立率

(平成10年 青森畑園試)

播種間隔 (cm)	は種粒数 (粒/10a)	苗立本数 (本/10a)	苗立率 (%)
8	63,291	41,457	65.5
10	51,020	33,870	66.4
12	42,735	29,675	69.4

表3 収穫時の生育及び収量

(平成10~11年 青森畑園試)

播種間隔 (cm)	年次	全重 (g)	草丈 (cm)	根重 (g)	根長 (cm)	根径 (mm)	収量 (kg/a)	
							上物	総収量
8	平成10	221	90	134	16.5	46	461	571
	平成11	242	84	160	16.0	49	385	503
10	平成10	271	88	151	16.2	48	495	558
	平成11	258	84	172	17.3	50	322	483
12	平成10	274	85	163	16.2	51	413	508
	平成11	273	79	189	17.7	51	275	401

注1) は種期 4月21日

2) 品種 向陽2号(コート種子)

3) 栽植様式 畦幅120cm、条間20cm、6条

(参考) 価格 多木式TPS-70 39万円